明石のまちづくり

AKASHI NO MACHIDUKURI

第9号
2021年11月

— 発　行 —
明石市連合まちづくり協議会
編集：広報部会
連絡先：明石市コミュニティ・生涯学習課
TEL (078)918-5004

明石市連合まちづくり協議会のスローガン　まちづくり　ゆめづくり

明石市連合まちづくり協議会会長就任あいさつ

今こそ団結を！

令和3年度に会長に就任しました藤本庸文です。

明石市連合まちづくり協議会は、平成28年6月に設立され早6年目に入りました。昨年来の新型コロナウイルス感染症の拡大により、市内各地区のまちづくり活動等がことごとく中止及び縮小等の多大な影響を受けています。当協議会も、感染拡大防止とまちづくり活動の両立という非常に難しい舵取りを求められる状況となっています。

マスコミの過剰な報道やSNSの誤った情報で不安をあおられることもありますが、感染予防・対策の正確な情報を把握し、各校区で情報交換をしまして、よりよいまちづくり活動をしていきたいと思います。

令和３年度明石市連合まちづくり協議会 役員

役職	氏名	所属団体名
会　長	藤本　庸文	王子まちづくり協議会
副会長	大西　功二	江井島まちづくり協議会
副会長	吉川　正博	二見西コミュニティ推進協議会
総　務	山村　宗夫	貴崎校区まちづくり協議会
会　計	小山　泰茂	二見校区まちづくり協議会
監　事	田中耕太郎	人丸まちづくり推進会
監　事	松尾　一範	高丘西校区まちづくり協議会
顧　問	安藤　正博	大久保まちづくり協議会

校区まちづくり組織とコミュニティ・スクール

明石市では「コミュニティ・スクール」の取り組みが進められており、校区まちづくり組織など地域の中でも話題に上ることが増えてきています。そこで、今号一面では明石市でのコミュニティ・スクールの取り組みについて、校区の事例を交えて紹介します。

今回は、明石市教育委員会事務局学校教育課のコミュニティ・スクールコーディネーターにお話を伺いました。

コミュニティ・スクール(コミスク)って？

コミスクの目的は、“地域と子どもたちで一緒になって学びの場をつくっていくこと”です。多様な人々との協働を通じて子どもたちの主体性や思考力を育むだけでなく、地域の方と子どもたちの関わりを通じて、よりよいまちづくりに繋がればという思いで取り組んでいます。

明石市のコミスクが目指すイメージ

明石市ではコミスクの取り組みを推進するために、市内の全小学校区に「学校運営協議会」を設置しています。

地域と子どもたちで一緒につくる学びの場

地域(おとな)にとっての学び

子どもたちとの関わりから

- 地域を見る視点が変わる
- 地域や地域課題について改めて知る機会にできる
- 地域に関心をもつ人が増え、保護者や先生が地域に関わるきっかけができる

子どもたちにとっての学び

地域の方との関わりから

- 地域とのつながりができる
- 身近な行事や環境などを知る機会ができ地域への愛着が湧く
- 高齢の方の生活上の悩みなど地域課題に触れることができる

市内校区のコミュニティ・スクールの取り組みの事例です。

松が丘　松が丘プロジェクト　子どもと大人で地域のことを考える

▲地域の方と子どもたちとで地域の公園清掃を実施

地域の方と子どもたちで様々な地域課題に取り組む「松が丘プロジェクト」を実施。公園清掃や花植えといった美化活動、高齢者宅のゴミ出しサポートなど、自治会やまち協と連携して様々な取り組みをおこなっています。また、子どもたちによる高齢者へのお困りごとアンケートも実施しており、自分たちが住む地域や地域課題に改めて目を向ける機会になっています。なかには、授業外にもボランティアとしてまち協に関わる子どもたちもいるそうです。

魚住　子どもたちの意見をまちづくり計画書へ

▲まち協の方と一緒に地域について話しあう子どもたち

「まちの幸福論」が題材の６年生の国語の授業で、まちづくりの出前授業とワークショップ形式で地域に関する意見交換を行いました。

まち協からは「支援対象だと思っていた子どもたちから、地域についての大人顔負けの意見が出て驚いた」との声があり、この取り組みをきっかけに、まちづくり計画書見直しのためにまち協が実施する住民アンケートを６年生にも回答してもらうことになったそうです。

和坂　桜守プロジェクト　地域に関わるきっかけに

▲地域住民が身近な自然に関心を持つきっかけにもなっています

自然環境についての授業から、和坂小学校の桜を守る取り組みとして「桜守プロジェクト」が始まりました。まち協環境部会の一員である「桜守ボランティア」と子どもたちと先生が、プロジェクトメンバーとして関わっています。

さらに地域住民なら誰でも登録できる「桜守プロジェクトサポート隊」を募集して、新たな人材の参画も促しているとのこと。サポート隊への応募も徐々に増えており、地域の桜を通じて新たなつながりが生まれつつあります。

二見北　地域と子どもたちで語る小学校の歴史と未来

▲座談会は感染症対策を万全にして実施されました

令和３年度に 50 周年を迎える二見北小学校。その式典に向けて、北小現役生である子どもたちと各期卒業生、まち協、商店会、保護者などで座談会を実施するなど、地域と子どもたちが一緒に準備を進めています。

座談会では子どもたちが地域の方から「二見北小は昔こうだった」と教えてもらい、今と比べたり「未来はこうなってほしい」と想像を膨らませ、そこから二見北小の過去から未来のストーリーが生まれました。式典ではそれを脚本にした寸劇を行う予定で、地域一丸となってその準備に取り組んでいます。

校区まちづくり組織

朝霧校区の取り組み

明石市内の小学校区では、それぞれの地域の実情に合わせたまちづくりを進めています。広報紙「明石のまちづくり」では、各校区で試行錯誤しながら取り組まれている内容について、連合まちづくり協議会の広報部会が取材し、事例として紹介しています。

平成28年、前身となる朝霧校区コミュニティ推進協議会を発展的に解消して発足した朝霧校区まちづくり協議会(以下、朝霧まち協)。結成の過程で、多様な人が参加できるよう知恵を出し合ってきました。その背景やどんな工夫があったのかについて、まずお聞きしました。

―朝霧川清掃や盆踊り 住民参加で変化つづけて

その点、堂本副会長は、「環境ボランティア活動をしていた西谷さんに声をかけたことが、朝霧まち協へ個人の方が参加するきっかけになった」と話します。

校区のシンボル的存在である朝霧川を地域の方によく知ってもらいたいと悩んでいた中、長年環境保全や環境教育に取り組んでいた西谷さん（現環境部会長)の参加が大きな変化に繋がりました。

▲子どもたちに朝霧川の魅力を伝える西谷さん(写真左)

元々校区で実施していた清掃活動を「朝霧川清掃・自然観察会」にリニューアル。生き物観察の要素を取り入れたことで子どもたちの興味を引き、参加者が増加しました。今では毎月親子連れをはじめ多くの地域住民が楽しみながら参加されているそうです。

また「地域に関心のある方にまち協に関わってもらう方法を常に考えている」と語るのは、交流部会長伊藤さん。まち協では、住民アンケートを行い「休日なら盆踊り大会に親子連れで参加できる・手伝える」という声をもとに検討を重ね、30年以上に渡り8月21・22日に固定していた開催日を8月第3土曜日へ変更。結果、これまで祭りに関われていなかった若い世代からも、子どもと一緒にブース出展してみたい、など具体的な反応があったそうです。

朝霧まち協では組織体制の面でも、さらに多様な人の参加を目指して検討を重ねています。

―個人の『やりたい!』を 応援する『あすあさ会』

「まちづくり計画書策定を作る時、色々な人が地域に関われる『まちづくりサポーター』制度を作ったが、既存の部会以外にもサポーターが活動できる場が必要という声があった」と話すのは大村会長。計画書策定の過程で様々な地域住民と意見交換を重ね、自分の関心事をきっかけに地域に関わりたい、という人が多数いることに気が付いたそうです。そういう人たちに、まちづくりに関わってもらうための仕組みとしてできたのが「明日の朝霧を作ろう会」通称「あすあさ会」です。

▲あすあさ会の意見交換の様子

あすあさ会は、毎月開催している意見交換の場。まち協役員や元計画書策定メンバーなどを中心に運営していて、地域に関心のある方なら誰でも参加できます。

あすあさ会での意見交換が具体的な活動に繋がることもあります。例えば「広報活動をやりたい!」という人が集まって「広報チーム」が、住民の交流機会となるまち歩きを企画する「ウォークラリーチーム」が立ち上がり、動き出しています。このように、意欲のある人たちがまずは自分の関心のあることに挑戦する場を、朝霧まち協規約は「特別チーム」として定めていて、役員会の承認を得て、部会とは別の小規模チームを作ることができます。大村会長は「今後もあすあさ会で意見交換を重ね新しいアイデアやチームが生まれることを期待している」と話します。

―地域と学校とで 取り組むまちづくり

あすあさ会には朝霧小学校の教頭先生が参加し、地域と学校が情報共有し合う機会になっています。学校からまち協へ「子どもたちが地域について学べる企画を一緒にやりたい」と提案があったとき、朝霧川源流を見に行くイベントを企画しました。また、有志数名と児童会が意見交換会を行い、「地域でこんなことをしてみたい」とアイデアを出し合うこともあったそうです。副会長の嶽肩さんは「地域が学校に積極的に関わることで、学校も地域に関わろうと思ってくれる。お互いに関心を持つことが大切。」と力をこめます。あすあさ会をきっかけに、コミュニティ・スクールの活動も動き始めています。

個人や学校など、多様なひとを巻き込み、地域の声を聞きながら試行錯誤を重ねて、変化を続けている朝霧まち協。これからの活躍も楽しみです。

▲取材に応じていただいた朝霧まち協のみなさん(左から、大村会長、嶽肩副会長、堂本副会長、蓬莱会計、西谷環境部会長、伊藤交流部会長)

広報部会より

広報部会メンバーが新しくなりました

広報部会では、明石市でのまちづくりについての先進事例や、校区まちづくり組織の取り組み紹介など、まちづくりに役立つ情報の発信を続けていきます。

▲左から、戸田部会員、小川部会員、田中部会長、大原部会員、髙尾部会員

令和３年度明石市連合まちづくり協議会 広報部会

役職	氏名	所属団体名
部会長	田中耕太郎	人丸まちづくり推進会
部会員	髙尾　秀彰	中崎まちづくりの会
部会員	小川　英市	沢池校区まちづくり協議会
部会員	戸田　清志	大久保南小学校区連合自治協議会
部会員	大原　笑子	二見北まちづくり協議会

自治会部会より

今年度は新型コロナウイルス感染症により自治会・町内会新会長研修会は中止しました。校区毎で自治会運営における相談や意見交換会を行う「校区会」を開催しました。各校区会ではコロナ禍でも工夫して取り組む自治会の情報を共有しただけでなく、「役員のなり手不足」「自治会に対する関心の希薄化」などの話題も出ました。自治会部会は、そういった意見を共有し、まちづくりの基盤となる自治会の強化に向けて粘り強く取り組むことなど話し合っています。

コロナ禍での自治会の取り組み紹介

▲地域に涼を届けるため、大久保駅前自治会・大久保商盛会等が協力し、JR大久保駅構内通路に自治会員が絵付けをした風鈴を飾りました。